

「風俗画報」と欧米の図版資料 ～起源・始まり～

株式会社 ゆまに書房

Web版風俗画報は、ジャパンナレッジが提供する電子書籍プラットフォームJKBooks上で、我が国最初のグラフ雑誌「風俗画報」をご提供するデータベースです。明治22(1889)年創刊、518冊からなる「風俗画報」は、我が国最大の風俗研究誌としても知られます。

「風俗画報」に掲載されている図版を、センゲージラーニング社Galeのデータベースに搭載された欧米の図版資料と比べながらご紹介する企画、第一弾は「万博博覧会」をテーマとしましたが、第二弾は「起源・始まり」を例にとり、「明治、大正時代に起源を持つ物」を集めました。西洋から伝わってきた物事を初めて目にした当時の日本人は、さぞかし驚いたことでしょう。本稿では、そういった様子が伝わってくる図版や記事をご紹介します。

◆冷蔵庫

この行列は何かな？と思う図ですが、冷蔵庫を見る人たちの行列です。明治36(1903)年に開催された第5回内国勧業博覧会での様子です。



左:〈図〉冷蔵庫 右:記事 冷蔵庫
第275号 第5回内国勧業博覧会図会下編 (明治36年9月30日)

この博覧会で展示された冷蔵庫は、現在の冷蔵庫とは異なり、何十人も入ることのできる個室だったようです。記事文中にもあるように、冷蔵庫内は熱のあるものを嫌うため、観覧は入れ替え制で、一度につき50人の入場制限がありました。長蛇の列ができなかなか動かない、ということからも、人々から大変注目されていた様子がわかります。とても不思議だったのではないのでしょうか。当時の汽船には、すでにその設備があったという記述は、興味深い点です。

◆エレベーター

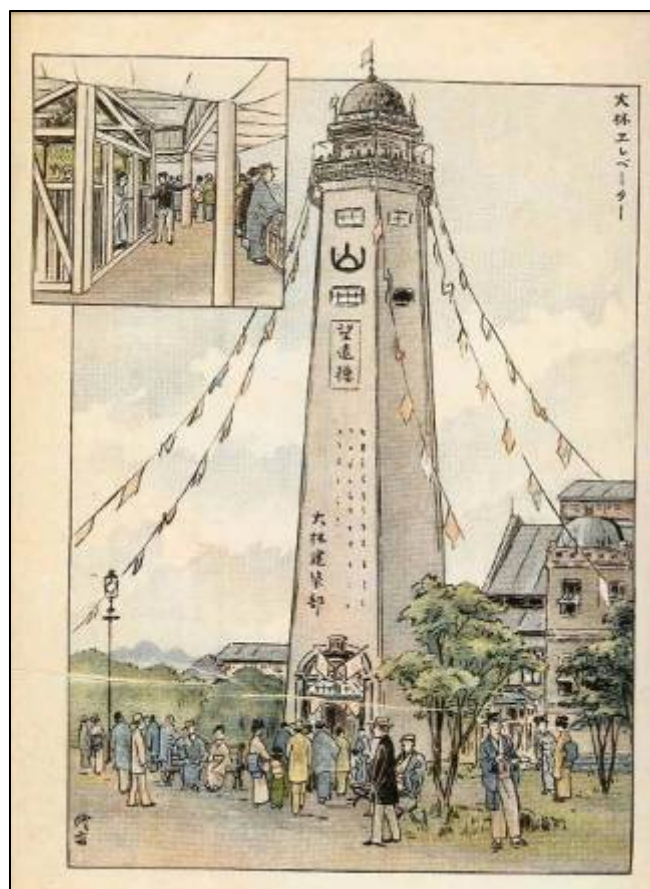
日本で初めてエレベーターが設置されたのは、明治23(1890)年、浅草の凌雲閣でした。

凌雲閣は、明治23年に浅草公園に設立された12階建ての建物で、建物内にはオルゴール、アーク電燈などが設置されていました。凌雲閣は、当時の最新技術が集まったモダンな町浅草の象徴だったようです。そのモダンの象徴の一つとして、エレベーターも設置されました。以下の記事では「エルベートル」と記され、15人から20人が同時に乗ることができ、1分間で1階から8階まで昇降できるものと紹介されています。

また、明治 36 年の第 5 回内国勸業博覧会でもエレベーターはお目見えしました。その博覧会のシンボルとなった大林高塔に設置されたのです。その図がこちらです。「エレベートル」から「エレベーター」に呼び名が変わっています。記事や図版を追っていくと、年代とともに呼び名が変わっていく事まで分かります。



凌雲閣
第 23 号(明治 23 年 12 月 10 日)

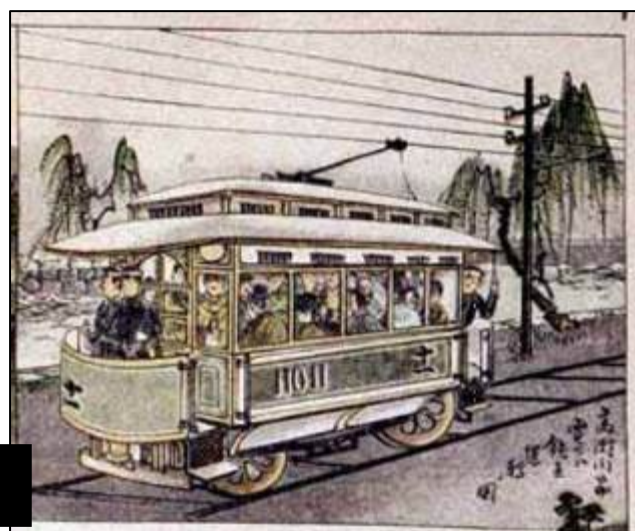


〈図〉大林エレベーター
第 275 号 第 5 回内国勸業博覧会図会下編
(明治 36 年 9 月 30 日)

◆電車

日本で路面電車が初めて運転されたのは明治 23 (1890) 年、東京上野の第 3 回内国勸業博覧会であると言われています。

明治 28 年 2 月には、京都で日本初の営業用電車が開業し、その年の京都博覧会会場へは沢山の人が電車に乗って訪れたようです。京都博覧会の特集号にそんな様子の図が載っていました。



〈図〉高瀬川筋電気鉄道運転の図
第 94 号(明治 28 年 6 月 18 日)

その後、各都市に沢山の路線が広がっていったようです。

東京の電車について、右の図が見つかりました。これは明治 36 年 10 月 10 日号の表紙です。行先は「新橋行」と書いてあります。

調べてみると、明治 36 年に「東京電車鉄道」という会社が品川ー新橋間を開業させたそうですから、これはその電車の図でしょう。この会社、前身は「東京馬車鉄道」だったそうです。「馬車」から「電車」への進化は、さぞかし人々を驚かせたことでしょう。



表紙 〈図〉電車鉄道
第 276 号(明治 36 年 10 月 10 日)

◆自転車

自転車は明治時代に日本に入ってきましたが、明治 25 年頃から流行したようです。「風俗画報」の中にも図や記事が見受けられます。

下の図は明治 26 年 6 月 1 日号の「日本帝国陸軍特別大演習記事及服制図会」に収録されている図です。右下の兵士は「オーディナリー型」と言われるものに乗っています。



〈図〉滝ノ原ノ南方壬生街道之西側ニ於ル南軍ノ砲兵並ニ自転車通信使
第 54 号 日本帝国陸軍特別大演習記事及服制図会 (明治 26 年 6 月 1 日)

そして、その5年後の号には、下記のものが掲載されていました。この図は日本人による最初の自転車競争運動会を描いたもので、色々ユニークな競技が行われたことが分かります。自転車の形が現在のものに近い、「セーフティ（安全型）自転車」に変化していることから、5年の間の技術の進化が見えてきます。



左：〈図〉 不忍池畔自転車競争之図 右：記事 自転車競争運動会
第178号(明治31年12月10日)

◆映画

下の図と記事は、明治30年に行われた映画（活動写真）の「日本初の上映会」の様子です。記事には、「米國ナイアガラの大瀑布の景」や「女丈夫ジョアンダーク火刑の景」などが上映されたと書かれています。



左：〈図〉 神田錦輝館活動大写真の図 右：記事 錦輝館の活動写真
第138号(明治30年4月10日)

この「神田錦輝館」という建物自体は、もともと集会を行うための貸しホールだったそうで、座る場所によってはスクリーンが良く見えない人も居たのでは無いかと思います。それでも人々が「映画」というものを初体験して、驚いている様子が伝わってきます。

◆音楽隊

オーケストラの原型と言うべき音楽隊の図です。明治 28 年の記事によると陸軍の軍楽隊をはじめいろいろな音楽隊があったようです。芸妓さんの音楽隊はユニークですね。



〈図〉東京少年音楽隊の図
第 97 号(明治 28 年 8 月 10 日)



〈図〉幼年音楽隊、少年音楽隊、市中音楽隊、芸妓音楽隊
第 100 号(明治 28 年 10 月 10 日)

◆水族館

水族館も明治時代に初めて作られました。何枚か図版を紹介していきます。

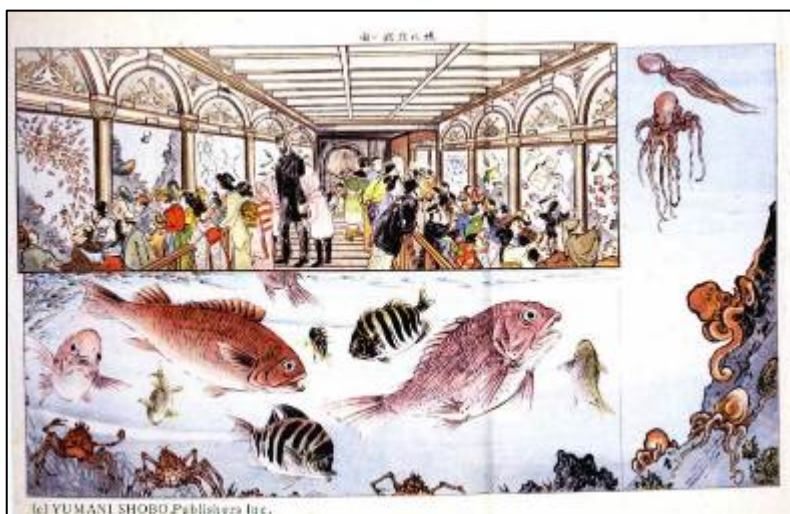
まずは明治 32 年にできた浅草の水族館です。日本初の私設水族館だったそうです。設備が立派で、現代の水族館のイメージに近いものになっています。



〈図〉浅草水族館
第 204 号 (明治 33 年 2 月 10 日)

次の図は、明治 36 年の第 5 回内国勸業博覧会の際に作られた堺水族館です。日本最初の本格的な水族館で、当時東洋一の水族館といわれたそうです。博覧会期中の水族館への来館者数は 80 万余りを数えました。

好評だったためでしょうか、博覧会終了後、国から堺市に無償で使っても良いという許可が出たことを伝える記事も載っていました。



〈図〉堺水族館の図
第 269 号 (明治 36 年 6 月 10 日)



堺水族館の繼續
第 275 号 (明治 36 年 9 月 30 日)

◆動物園

日本で一番古い動物園と言えば上野動物園です。

明治 29 年の全体図には、どんな動物がいるか檻に名前が載っており、すでにクマやトラの名前が見られます。



〈図〉上野公園動物園之図
第 131 号新撰東京名所図会
第 2 編上野公園之部下
(明治 29 年 12 月 20 日)

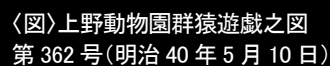
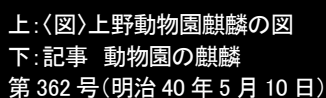
ライオンが初めて日本に来たのは明治 35 年だったそうです。

下の図にはライオンの檻を覗く人々の様子も描かれており、多くの注目を集めていることが分かります。ちょっとライオンが窮屈そうでかわいそうですが。



〈図〉上野動物園新渡来の獅子牝牡
並に駝鳥の図
第 245 号(明治 35 年 2 月 15 日)

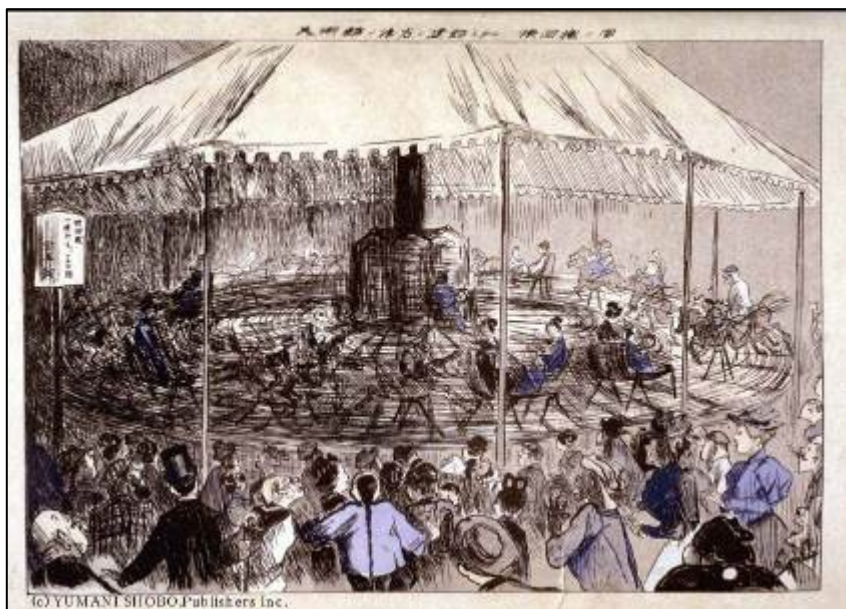
猿の方はとても楽しそうですね。ブランコで遊んでいる姿が可愛いです。遠足でしょうか？子供たちの一団が来ています。



◆遊園地

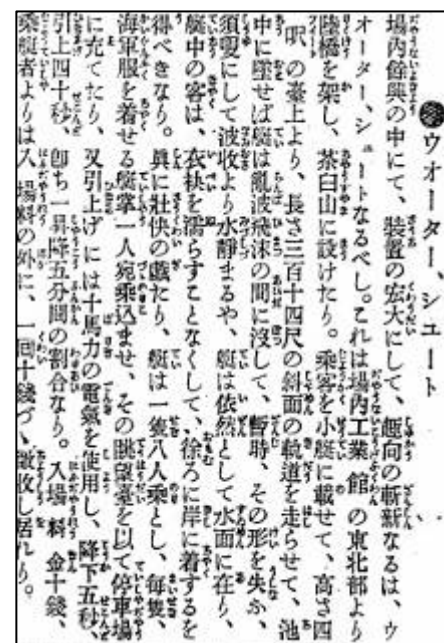
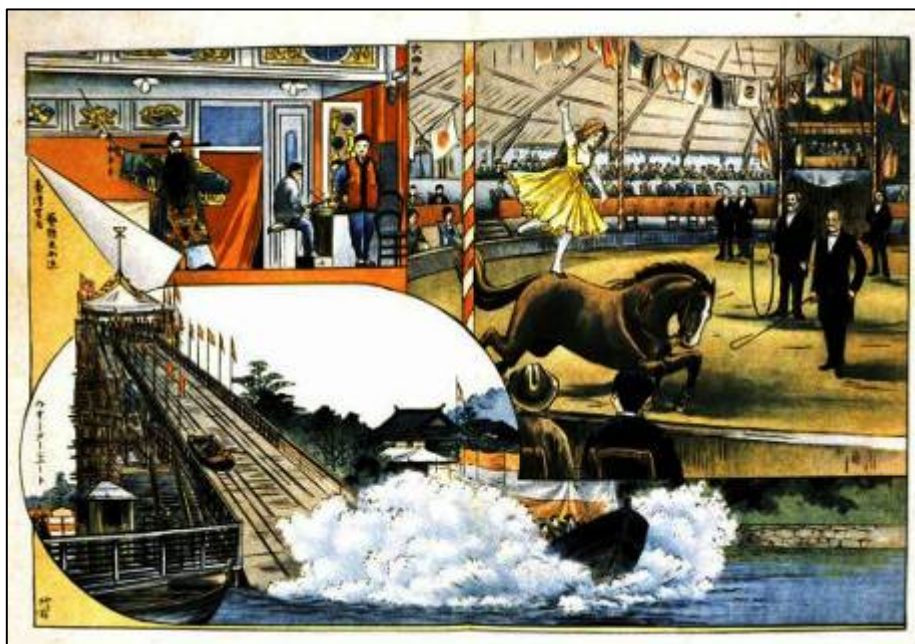
遊園地が日本でできるきっかけは博覧会でした。

メリーゴーランド、ウォーターシュートは、明治36年の第5回内国勸業博覧会で初めて設置されたそうです。メリーゴーランドは「快回機」にふりがなを振る形で紹介されています。画家さんには早く見えたのでしょ、かなりのスピードで回っているように描かれています。



左：〈図〉美術館の後方二建設シタル快回機ノ図 右：記事 場内の余興○快回機
第269号 第5回内国勸業博覧会図会上編（明治36年6月10日）

ウォーターシュートも現在のものと変わらない姿です。船の引き上げには電気を使用していたそうです。さぞかし当時の人々は驚いたでしょう。



〈図〉ウォーター、シュート
第275号 第5回内国勸業博覧会図会下編
（明治36年9月30日）

記事：ウォーター、シュート
第269号 第5回内国勸業博覧会図会上編
（明治36年6月10日）

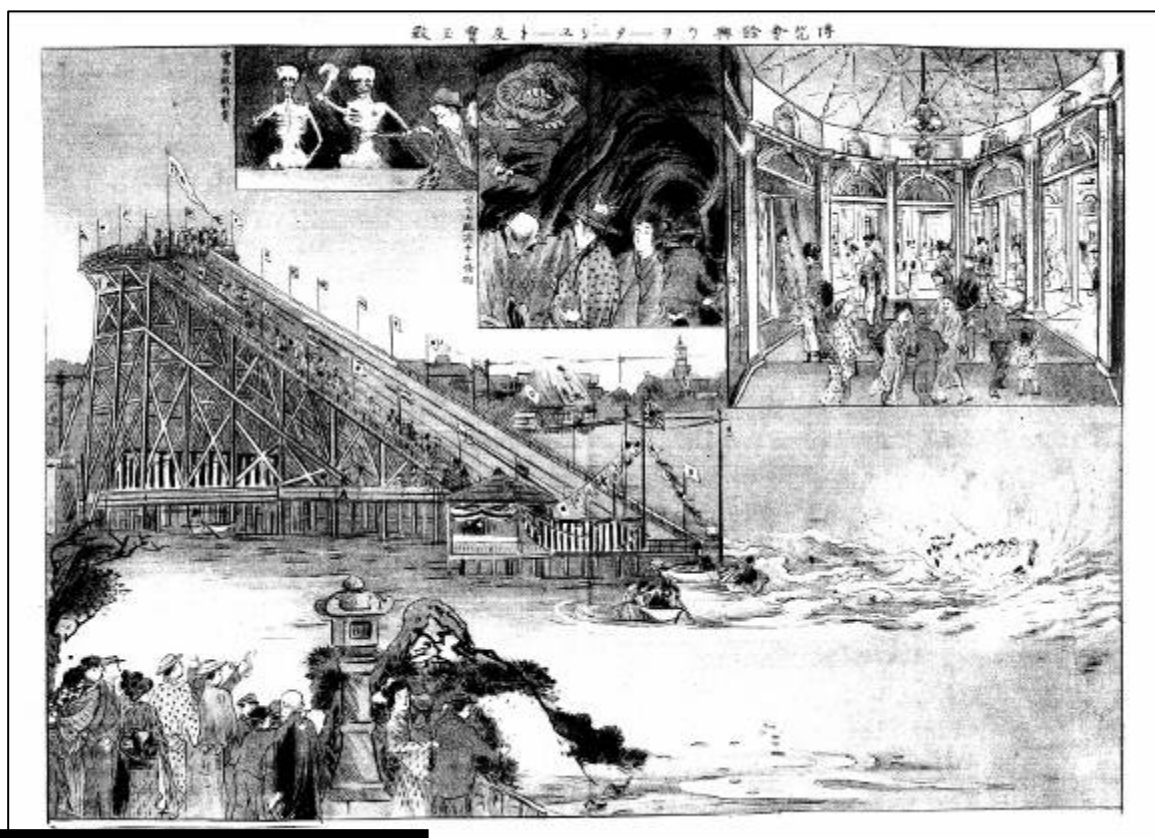
観覧車は明治 40 年の東京勸業博覧会で初めて設置されました。第一会場の「展望観覧車」の写真が載っていました。電気モーターで動くものだったそうです。また、第二会場には「空中回転車」がありました。第一会場の「観覧車」より小ぶりで、こちらは蒸気を用いて回転させていました。毎晩、イルミネーションを点灯させていたという記述も見られます。



左:〈写真〉展望観覧車
第 361 号 東京勸業博覧会図会第 2 編
(明治 40 年 4 月 25 日)

右:記事 空中回転車
第 365 号 東京勸業博覧会図会第 4 編
(明治 40 年 6 月 25 日)

この博覧会でもウォーターシュートは設置されました。前回のものより規模が大きく高さが 50 尺 (15 メートル弱)、傾斜は 200 尺 (60 メートル弱) だったそうです。

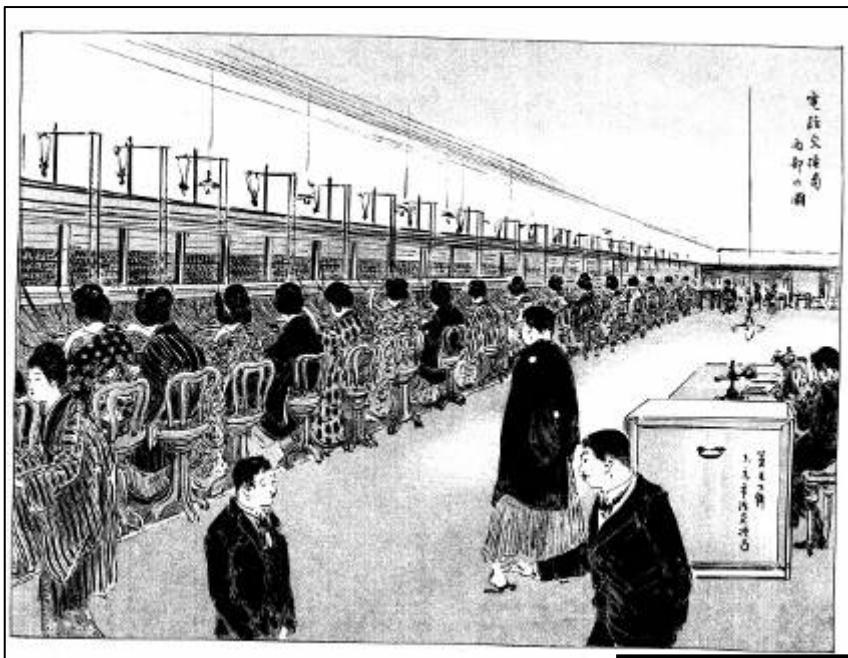


〈図〉博覧会余興ウォーターシュート及宝玉殿
第 365 号 東京勸業博覧会図会第 4 編 (明治 40 年 6 月 25 日)

◆電話

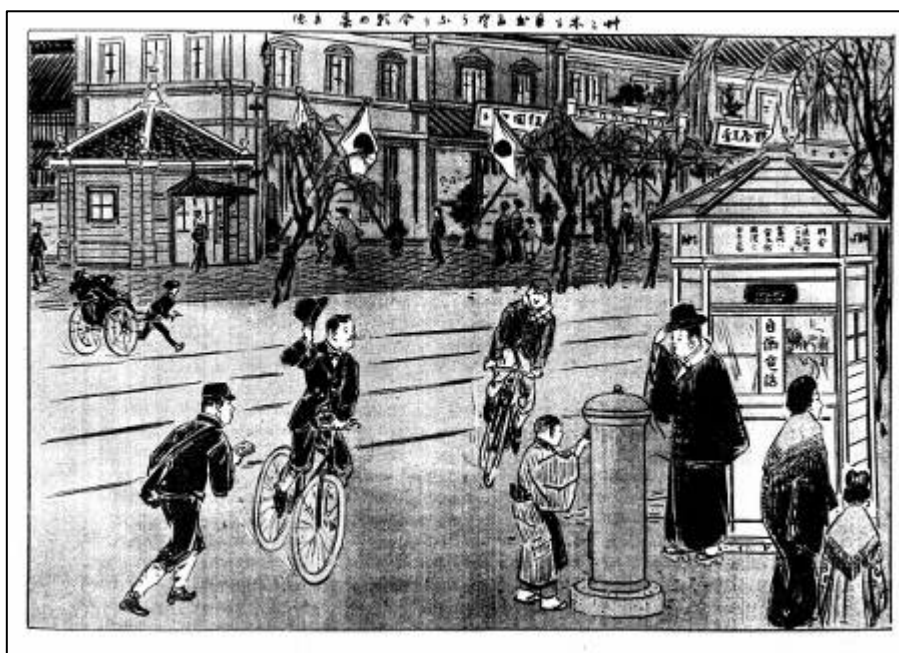
電話が日本にもたらされたのは明治9年頃だったそうですが、明治23(1890)年に電話交換局ができ、東京・横浜間で、わが国で初めて電話交換業務が開始されたようです。

電話交換本局では、男性19名、女性65名が電話交換手として勤務している、と書かれています、図からも女性の交換手が沢山働いていることが分かります。



左:〈図〉電話交換局内部の図 右:記事 電話交換本局[銭瓶町]
第175号新撰東京名所図会第16編麹町区之部上(明治31年10月25日)

この後電話は庶民の生活にどんどん広まっていき、街には電話ボックスも設置されるようになりました。その様子が良く分かるのが下の図です。当時は「自働電話」と言っていたようです。ここにも自転車に乗っている人が見られます。



左:〈図〉市街の花 右:記事 市街の花
第262号(明治36年1月1日)

◆ビール

日本でのビールの歴史は思ったより古く、明治20年代には各地にビール会社ができていたようです。

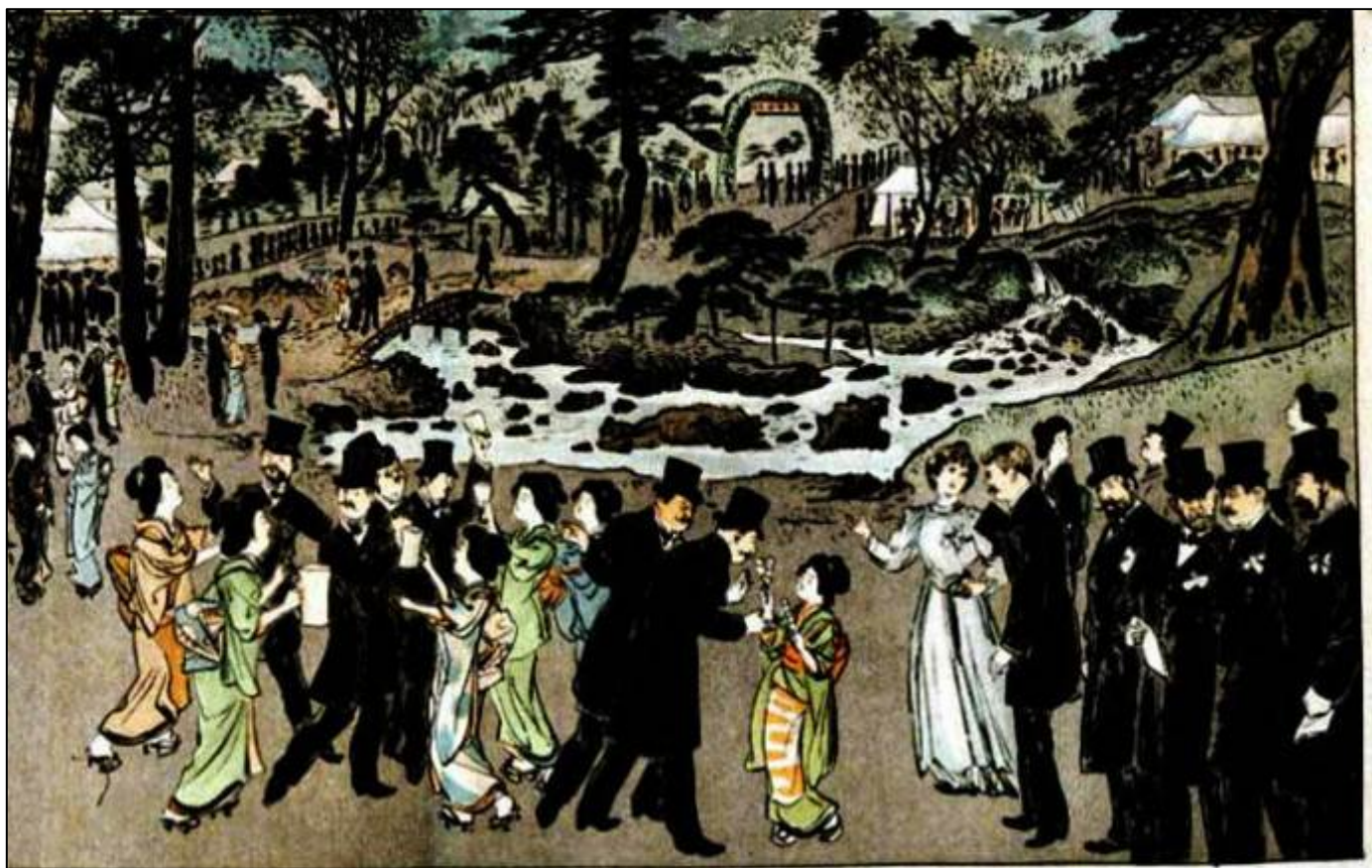
「風俗画報」の中に見られる宴会の風景には、しばしばビアジョッキを持った人たちが登場します。「生ビール」という言葉ももう使われていたようです。当時から「欠かせないもの」だったのでしょう。ビアホールの図もありました。



〈図〉褒章授与式後第一会場に於ける園遊会
東京勸業博覧会図会第5編
第367号(明治40年7月25日)



〈図〉明治十年より十八九年此迄の震鯨宴会の実況
故生方桂堂先生画其2
第224号(明治34年1月20日)



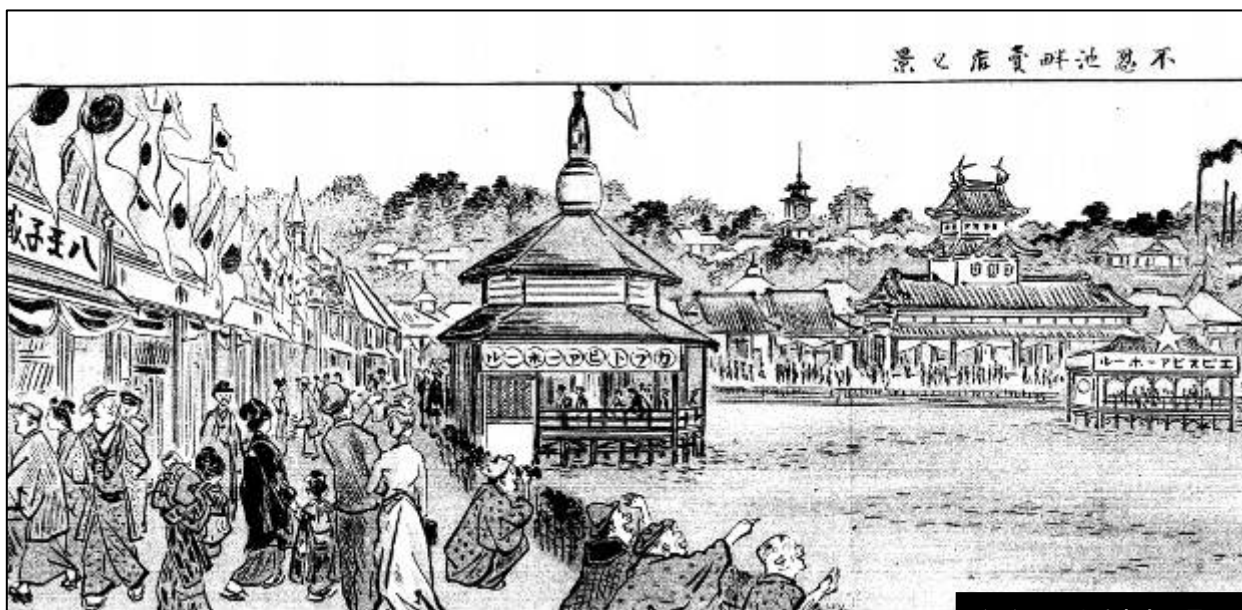
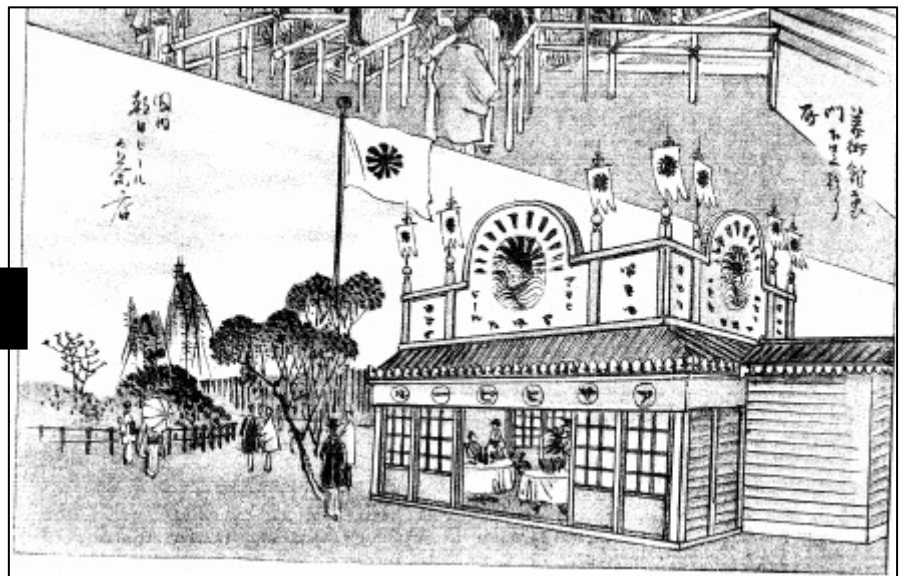
〈図〉雨宮邸内祝賀の宴
第354号(明治39年12月10日)



酒場の内場

〈図〉場内の酒舗
第 335 号 出征軍隊凱旋図会第 4 編
(明治 39 年 2 月 25 日)

〈図〉園内朝日ビールの茶店
第 94 号(明治 28 年 6 月 18 日)



〈図〉不忍池畔売店之景
第 365 号 東京勸業博覧会図会第 4 編
(明治 40 年 6 月 25 日)

◆野球

野球は「横浜名所図会」の中に登場します。この公園では、大学生の試合などが行われていたそうです。

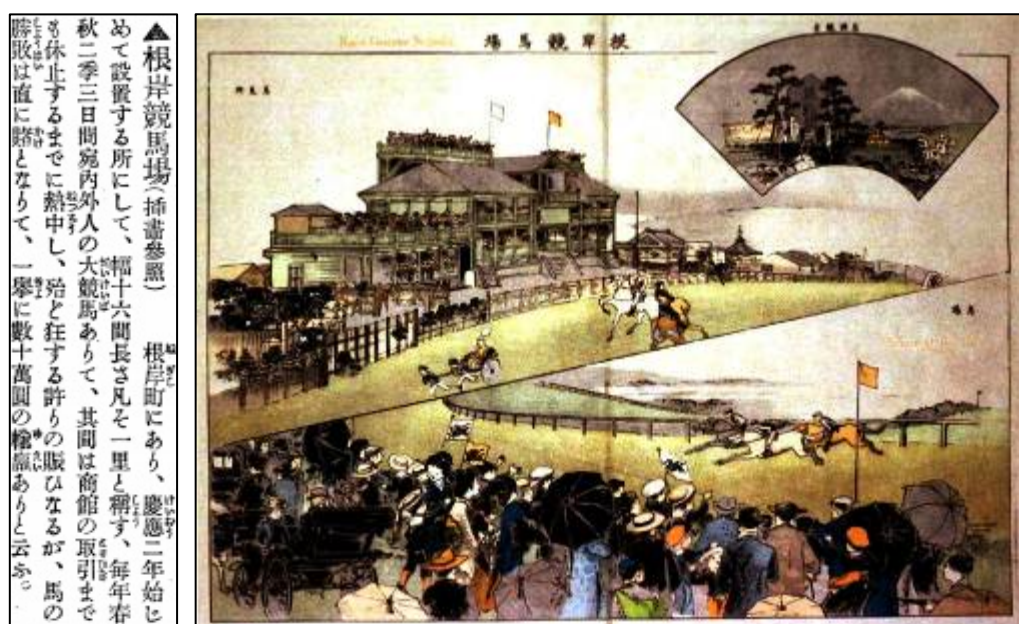


〈図〉公園地内野球競技 第 257 号横浜名所図会(明治 35 年 10 月 5 日)

◆競馬

根岸競馬場は居留地に建設されました。

この図は「横浜名所図会」の中に収録されている根岸競馬場の図です。根岸競馬場は、当初は居留民の娯楽施設でしたが、次第に日本人も参加するようになりました。明治 35 年に描かれたものですが、子供も沢山見えていますね。記事には「毎年春秋二季三日間宛内外人の大競馬ありて、其間は商館の取引までも休止するまでに熱中し、殆ど狂する許りの賑わひなるが」とあり、熱狂ぶりが伝わってきます。



記事:〈見物の葉(付花暦) 根岸競馬場(挿画参照) 〉図〉根岸競馬場○馬見所、馬場 第 257 号横浜名所図会 (明治 35 年 10 月 5 日)

池上競馬場は、明治39（1906）年から明治 43（1910）年にかけての 3 年間だけ開設された競馬場です。

池上競馬場では、日本人の手によって初めて馬券が発売されました。第 1 回の様子を報じた「風俗画報」の記事によると、興業 4 日間で、当時のお金で 85 万円もの売り上げがあったそうです。現在の貨幣価値に直すといくらでしょうか、莫大な金額であることは確かです。

また、驚くべきことに、この競馬場ではドレスコードがあったそうです。特に 1 等席は正装が求められたようで、その様子を描いた図は明治時代の日本とは少し別世界のように見えます。



記事：池上競馬会 〈図〉池上競馬会
第 355 号(明治 40 年 1 月 1 日)

まだまだご紹介したい「明治、大正時代に起源を持つ物」は沢山ありますが、今回はここまでにしましょう。今回ご紹介した記事や図から、明治、大正時代の人々の「初めてのもの」を見た驚き、服装などの暮らしの様子、街の様子など色々なものが伝わったのではないのでしょうか？

こういった記事や図が沢山含まれている「風俗画報」ならではの楽しさを、是非一度御体感ください。

掲載商品のすべてのコンテンツと機能をお試しいただける 1 ヶ月の無料トライアルを受け付けております。掲載の商品・サービスに関するお申し込み、お問い合わせは、株式会社 紀伊國屋書店 学術情報商品部 電子商品課（電話:03-6910-0518、ファクス:03-6420-1359、e-mail:online@kinokuniya.co.jp）までお願い致します。

お預かりした個人情報は、弊社規定の「個人情報取扱方針」<http://www.kinokuniya.co.jp/06/gaiyo6.htm> に則り、取り扱わせて頂きます。